
学 校 教 育

1 重 点 目 標	P11
2 現 況	
(1) 学級数及び児童生徒・教職員数	P11
(2) 学 校 概 況	
① とうべつ学園	P12
② 西当別小学校	P14
③ 西当別中学校	P16
3 学 校 給 食	P18
4 保 護 者 支 援 制 度	P19

➤ 1 重点目標

小中一貫教育6年目、新たなステージへ

～併設型、一体型それぞれの小中一貫教育推進～

※詳細は、「当別町教育推進計画」参照

➤ 2 現況

(1) 学級数及び児童生徒・教職員数

令和6年5月1日現在

区分 学校名		学級数		児童生徒数（人）								教職員数（人）					
		普通	特別支援	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	計	校長	教頭	教諭	養護教諭	事務職員	栄養教諭
1	西当別小学校	8	3	35	31	47	37	26	27	9	212	1	1	16	1	1	
2	西当別中学校	5	2	46	37	49				5	137	1	1	15	1	1	
3	とうべつ学園 （前期課程）	12	4	40	45	44	42	45	49	12	277		1	25	1	1	1
	とうべつ学園 （後期課程）	6	3	44	46	53				6	149	1	1	16	1	1	
合 計		31	12							32	775	3	4	72	4	4	1

※加配事業による教職員の配置（上記教職員数の内数）

加 配 事 業 名	西当別小学校	西当別中学校	とうべつ学園（前期課程）	とうべつ学園（後期課程）	合 計
指導方法工夫改善	1	1			2
通 級 指 導			4	1	5
主 幹 教 諭	0.5	0.5			1
専科指導（小中一貫）		1		2	3
日 本 語 指 導			2		2
事 務 職 員		1			1
合 計	1.5	3.5	6	3	14

(2) 学校概況

とうべつ学園（義務教育学校）	
校章・所在地	 【校章の意味】 中心の花は「亜麻の花」を表現。とうべつ学園の「と」を「T」にも見えるようにデザインし、当別の「当」の字で丸く囲むよう配置。「知」「徳」「体」「絆」「夢」を星に込め、学問の象徴でもあるペンで表現。 〒061-0205 北海道石狩郡当別町下川町 125 番地 電話：0133-23-2102 FAX：0133-23-3760
校歌	作詞 西下 航平 作曲 高木 慶太 一 曙光に照らさるる当別に 真空色付く亜麻の花 白樺戦ぎて風涼やかに 平野を臨みて深めよ心 二 黄金に覆わるる石狩野 紫雲にけふる阿蘇の山 紅葉と交わりて色鮮やかに 自然を仰ぎて忘るな故郷 三 歴史に刻まるる開拓の 心受け継ぎ身を立てり 川辺を伝いて道賑やかに 一つに集いて学べよ我ら 四 雲雀東風吹かるるかすみ草 梟飛び立つ影白く 希望を歌いて身を健やかに 未来を拓きて愛せよ故郷
沿革の概要	【母 体】当別小学校及び当別中学校の統合 平成30年 基本構想策定 令和 元年 開校準備委員会・教育課程編成委員会設置 2年 校名決定 実施設計策定 校舎建設工事（～令和4年2月） 校章制定 3年 校歌制定 4年 とうべつ学園開校
教育目標	夢と志を持ち 希望に満ちた未来を拓く子どもの育成 ◇ 高い志と確かな学力をはぐくむ （知） ◇ 思いやりの心と豊かな人間性をはぐくむ （徳） ◇ たくましい身体と心をはぐくむ （体）
経営の重点	1 信頼と調和のある学校づくりの推進 2 児童生徒の自己実現を図る教育の推進 3 必要となる資質・能力を確実に育む教育の推進 4 豊かな心と健やかな体を培い、社会性を育む教育の推進 5 共生を基盤とした豊かな人間性を育む教育の推進 6 時代を見通し、新たな可能性を育む教育の推進 7 家庭・地域と連携し、地域と共に児童生徒を育む教育の推進
研究主題	《 研 究 主 題 》 「主体的に深く考える児童生徒の育成」～ 義務教育9年間を見通した授業の工夫 ～

特色ある教育活動

1 系統性・連続性を踏まえた生活・学習指導

・教育的ニーズに応じたきめ細かな指導の充実を図る。

・校務分掌に支援教育部を設置し、子ども一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実を図る。

2 日常的な異学年交流活動

・日常的な縦割り班活動、地域や異校種との交流を通じて、豊かな人間性や社会性を培う。

3 4・5・6年生における一部教科担任制

・専門的な教科指導の充実による学力の向上を促す。

・多くの指導者のかかわりによる、きめ細かい指導と児童生徒の多面的な理解の促進を図る。

4 5年生からの児童生徒会活動の実施

・5年生から児童生徒会活動に参加し、協力して課題を解決し、自分たちの手でよりよい学校をつくろうとする自主的・実践的な態度を育てる。

5 5年生からの部活動の参加

・5年生から部活動に参加可能とし、スポーツや文化芸術等に親しもうとする態度を養う。

・後期課程での本格的な部活動開始に向けた基本的技能や基礎的体力の向上を図る。

6 英語教育の全学年実施

7 独自教科「とうべつ未来学」の全学年実施

学級編制

令和6年5月1日現在

(前期課程)

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
学級数	2	2	2	2	2	2	12 <4>
男子	22 (2)	27 (2)	21 (0)	23 (1)	18 (2)	27 (2)	138 (9)
女子	18 (1)	18 (0)	23 (0)	19 (1)	27 (1)	22 (0)	126 (3)
合計	40 (3)	45 (2)	44 (0)	42 (2)	45 (3)	49 (2)	265 (12)

(後期課程)

学年	7年	8年	9年	合計
学級数	2	2	2	6 <3>
男子	18 (1)	22 (1)	23 (2)	63 (4)
女子	26 (1)	24 (0)	30 (1)	80 (2)
合計	44 (2)	46 (1)	53 (3)	143 (6)

基礎期（1～4年生）

「基礎基本の確実な習得」

充実期（5～7年生）

「目標の設定と自ら学ぶ態度の育成」

発展期（8・9年生）

「自分の人生をデザインする力の育成
～夢の実現へ～」

※（）～特別支援学級の児童・生徒数で外数とする。

< >～特別支援学級数で外数とする。

教職員

令和6年5月1日現在

校長 吉村 公孝

教頭（前期課程） 砂原 史朗

（後期課程） 桂川 淳

教職員数 主幹教諭1名 教諭40名 助教諭1名 養護教諭2名 栄養教諭1名
事務職員2名 時間講師1名 学力向上推進講師2名 特別支援教育支援員3名
特別支援学級介助員1名 事務嘱託員2名 学校管理人2名 学習指導員1名
外国人児童生徒支援員1名 スクールサポートスタッフ2名
ALT2名、スクールカウンセラー1名

西 当 別 小 学 校 (中学校併設型小学校)

校章・所在地



【校章の意味】

雪のように清らかに、鏡のように曇りなき心身の発達成長への願いを表す。

〒061-3776

北海道石狩郡当別町太美町 1481 番地

電話：0133-26-2170 FAX：0133-26-2813

校歌

三
夕雲遠く しずまりて
阿蘇石山に あかねさす
われらはのぞみ もやしあい
育つよ育つ すこやかに
西当別の小学校

二
緑の原を つらぬきて
石狩川の 水清し
われらはともに 手を結び
進むよ進む ひとすじに
西当別の小学校

一
青き手稻の かがやけば
豊かなる野に 風かおる
われらはあした 集い来て
学ぶよ学ぶ さわやかに
西当別の小学校

作詞 坂本
作曲 津田
甫 亮

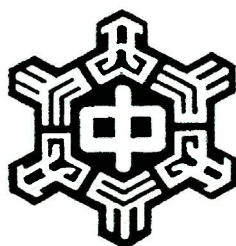
沿革の概要

昭和 26 年	獅子内小学校・太美小学校が合併して 西当別小学校設立 新校舎落成・移転 校章制定	平成 22 年	当別町青少年善行賞受賞 (リングブル・エコキャップ収集) 当別町 140 年記念パレード見学、 記念式典参加 (5 年生)
27 年	西当別小学校校歌制定	23 年	大崎市へ震災復興激励の横断幕の送付
32 年	校舎増築、屋内体育館完成	24 年	J R 電化祝賀式典参加
36 年	開校 10 周年記念式挙行	26 年	西当別地区プレイハウスが西当別 小学校内へ移転
46 年	開校 20 周年記念式挙行	27 年	電子黒板・書画カメラ設置
48 年	増築校舎完成 (理科室・準備室、視聴覚室、 放送室、保健室)	28 年	一貫教育推進講師配置 (西当別中学校と兼務) JICA 研修員学校訪問 (アフリカ諸国より)
50 年	北海道小中学校放送教育研究大会開催		レクサンド市教育委員会視察団訪問
56 年	開校 30 周年記念式・祝賀会	29 年	小中一貫教育開始 旧校舎屋根改修工事 西当別コミュニティスクール開始
57 年	新校舎完成 (普通教室 4・音楽室・理科室)	30 年	全国いじめ問題子どもサミット参加 授業改善推進チーム活用事業開始 体育館屋根改修工事 当教研学校課題研究発表会開催
58 年	新体育館落成式・祝賀会	令和 元年	体育館照明、トイレ、玄関改修工事
62 年	開校記念日指定・祝賀会	2 年	木質バイオマスボイラー設置工事 校内 LAN 設備改修、児童一人 1 台端末配置 石狩管内教育実践奨励表彰受賞
平成 元年	グラウンド改修工事		開校 70 周年記念品作成
3 年	高岡小学校を本校へ統合	3 年	中央玄関、東児童玄関および、1・2 階中央トイレ改修工事
6 年	増築校舎落成式・祝賀会	4 年	当教研学校課題研究発表会開催
7 年	プレハブ校舎 4 教室完成	5 年	屋上キュービクル、放送設備及び中央 玄関前花壇改修工事 電子黒板 (ビッグパッド) 配置
8 年	増築校舎完成式 (普通教室 8・音楽室・図工室) 学校給食開始		
9 年	「たんぼぼ学級」設置		
13 年	新学校教育目標制定 開校 50 周年記念式・祝賀会		
14 年	視聴覚室改修		
15 年	児童図書管理コンピューター化		
16 年	ハマナス 50 本植樹 (朝日新聞社より寄贈)		
18 年	文部科学省指定の「小中連携事業」 開始 (2 か年)		
19 年	国際理解教育開始 (ALT との学習) JICA 研修員学校訪問 (アフリカ諸国より)		

教育目標	◇ 心ゆさぶる感性 〈心〉 ・ のびのび語り合う子 ◇ 学びを求める知性 〈学び〉 ・ ぐんぐん学び合う子 ◇ 生き方を磨く個性 〈生き方〉 ・ もりもりきたえ合う子 [平成13年3月改定]																																								
経営の重点	◆支持的風土の学年・学級づくり ◆体力の向上と健康安全教育 ◆確かな学力の向上を図る学習指導 ◆一人一人を大切にした特別支援教育 ◆豊かな心を育む生徒指導 ◆小中一貫教育・幼保小、地域保護者連携																																								
研究主題	≪ 重点指標 ≫ 「チーム西当小の協働による、主体的・対話的に学ぶ、意欲あふれる子どもの育成」 ≪ 研究主題 ≫ 「自他を大切に、主体的に学び合う子どもの育成」																																								
特色ある教育活動	1 基礎・基本を大切に確かな学力を身に付ける学習指導 ・ 全校一斉に毎朝「朝読書」「ドリルタイム」に取り組む ・ 学力向上推進講師の活用（理科、英語） ・ 小中連携の専科講師の活用（体育） ・ I C T機器（クロームブック等）を活用した授業改善の推進 2 地域の人材を活用した学習支援活動（ときめきバンク・学校支援地域本部事業ボランティア） ・ 様々な教科や特別活動、総合的な学習の時間などに「ときめきバンク」（人材バンク）に登録している人材の活用 3 N P Oと取り組む環境教育 ・ N P Oの協力を得て、環境教育に積極的に取り組む（5年生「道民の森」での学習など） 4 活発に行われる読書活動 ・ 全校一斉の「朝読書」、11月の読書月間、地域ボランティアによる本の読み聞かせなど、読書活動を通して豊かな心を養い、国語力向上を目指した取り組み 5 生き生きと展開する児童会活動 ・ 思いやりの心を育て、児童相互のふれあいを大切にした「ふれあいタイム」 ・ 明るい挨拶が積極的にできるよう「あいさつ運動」を児童会が主体的に計画運営する ・ 「西小タイム」、西当別中と連携した環境活動「クリーン作戦」 6 基本的な生活習慣や子どもの生きる力を育てる幼保小中連携事業の充実・発展 ・ 保育所園児の学校体験会、1年生との交流活動 ・ 6年生の中学校登校、授業体験、部活動体験 ・ 小中合同クリーン作戦、小中合同いじめ撲滅集会など合同行事の開催 7 教科担任制の実施 8 英語教育の全学年実施 9 独自教科「とうべつ未来学」の全学年実施																																								
学級編制	令和6年5月1日現在 <table><tr><td>学年</td><td>1年</td><td>2年</td><td>3年</td><td>4年</td><td>5年</td><td>6年</td><td>合計</td></tr><tr><td>学級数</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>8 <3></td></tr><tr><td>男子</td><td>19 (1)</td><td>15 (2)</td><td>31 (1)</td><td>19 (1)</td><td>10 (3)</td><td>14 (1)</td><td>108 (9)</td></tr><tr><td>女子</td><td>16 (0)</td><td>16 (0)</td><td>16 (0)</td><td>18 (0)</td><td>16 (0)</td><td>13 (0)</td><td>95 (0)</td></tr><tr><td>合計</td><td>35 (1)</td><td>31 (2)</td><td>47 (1)</td><td>37 (1)</td><td>26 (3)</td><td>27 (1)</td><td>203 (9)</td></tr></table> ※ () ～特別支援学級の児童・生徒数で外数とする。 < > ～特別支援学級数で外数とする。	学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	学級数	1	1	2	2	1	1	8 <3>	男子	19 (1)	15 (2)	31 (1)	19 (1)	10 (3)	14 (1)	108 (9)	女子	16 (0)	16 (0)	16 (0)	18 (0)	16 (0)	13 (0)	95 (0)	合計	35 (1)	31 (2)	47 (1)	37 (1)	26 (3)	27 (1)	203 (9)
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計																																		
学級数	1	1	2	2	1	1	8 <3>																																		
男子	19 (1)	15 (2)	31 (1)	19 (1)	10 (3)	14 (1)	108 (9)																																		
女子	16 (0)	16 (0)	16 (0)	18 (0)	16 (0)	13 (0)	95 (0)																																		
合計	35 (1)	31 (2)	47 (1)	37 (1)	26 (3)	27 (1)	203 (9)																																		
教職員	令和6年5月1日現在 校長 潟 沼 史 朗 教頭 瀬 野 裕 子 教職員数 主幹教諭1名 教諭15名 養護教諭1名 事務職員1名 学力向上推進講師1名 時間講師1名 特別支援教育支援員3名 特別支援学級介助員1名 事務嘱託員1名 学校管理人1名 A L T 2名、スクールカウンセラー1名																																								

西 当 別 中 学 校 (小学校併設型中学校)

校章・所在地



【校章の意味】

六角形の雪の結晶に、西当の文字を図案化し、中の字の周りに配する。

〒061-3772

北海道石狩郡当別町獅子内 5134 番地 1

電話：0133-26-2252 FAX：0133-26-2412

校歌

作詞・作曲 倉島 繁

一 石狩の 潮騒遠く
夕映えの 広まるほとり
厳かしく 立てる学び舎
西当別 われらのふるさと

二 緑なす 森の梢に
先人の 功徳ひつ
集い合う 若人われら
西当別 われらのふるさと

三 涼風は 垂穂にそよぎ
行く水は 広野つるほす
豊けしや みのりの里わ
西当別 われらのふるさと

四 大いなる 恵の朝
われら今 光を受けて
踏み分けん 真の長道
西当別 われらのふるさと

沿革の概要

昭和22年	獅子内小に併置開校	平成16年	全道ソフトボール大会3位
	当別町制施行町立に	17年	新教育目標設定
23年	校章制定、独立校舎落成	18年	全道ソフトボール大会3位
25年	高岡分校設置		18・19年度国立教育政策研究所委嘱事業 小中連携教育実践研究指定校
26年	旧校歌制定	19年	道「青少年の主張」大会優秀賞(個人)
31年	体育館落成	20年	石狩管内教育実践奨励賞受賞
32年	開校10周年式典	21年	モンゴル国教育視察団訪問
38年	高岡分校独立	22年	E S D日米教員交流団来校
42年	開校20周年式典		体育館耐震改修工事
43年	高岡中学校統合	23年	当別町学校教育研究推進協議会学校研究発表会
46年	町プール校地に設置	25年	体育館大規模改修工事
49年	スクールバス運行		旧校舎給水管改修工事
51年	石狩管内教育実践奨励賞受賞	26年	校務用生徒用パソコン更新
52年	開校30周年式典	27年	電子黒板・書画カメラ設置
54年	体育館落成	29年	小中一貫教育開始
56年	新校舎落成記念式典		開校70周年
57年	校舎落成記念植樹	30年	全国いじめ問題子どもサミット参加
	グラウンド完成	31年	部活動後援会設立
平成4年	学校週5日制開始	令和元年	町150年記念事業プレイベント参加
8年	学校給食完全実施、事務補配置	2年	新型コロナのため臨休(4/11~5/31)
	全国スキー大会回転優勝(個人)		木質チップボイラー工事
9年	開校50周年式典・スウェーデン訪問		校内LAN設備改修、生徒一人1台端末
11年	全道剣道大会3位(個人)	4年	拠点校方式部活動開始
12年	増築校舎完成		全日本吹奏楽コンクール予選参加
	町P連研究大会(本校PTA主管)		
13年	特殊学級設置・10学級編制		
14年	全道新体操準優勝(個人)		
15年	全道新体操優勝、準優勝(個人)		

教育目標

ここ西当別の大地で、
◇ 高い知性 〈知〉
◇ 強い意志 〈徳〉
◇ 健やかな体 〈体〉
を求め、自らの進路を切り拓こう

[平成17年2月制定]

経営の方針と重点	<経営の方針> (1) [確かな学力の向上] →生徒の進路選択・実現に向けた確かな学力の基礎を定着させ、更なる向上を図る。 (2) [安全・安心・いじめ「0」] →生徒に寄り添い、安全に安心して学ぶ、積極的な認知によるいじめ「0」の学校づくり。 (3) [合理的配慮] →生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適切な指導や支援を遂行する柔軟な対応と体制。 (4) [社会に開かれた教育課程] →家庭・地域と共に学びを創る連携・協働した教育活動の推進。 (5) [ONE TEAM] →教育者としての使命感と責務を自覚した効率的な協働組織体制による学校経営。 <教育推進の重点> 『生徒の良さと可能性を導く、やる気のスイッチ』 (1) 自ら学ぶ主体性を導き共に学びを深める授業づくり (2) 友達や仲間と共に高め合う協働性を培う学級づくり (3) より良く生きる公共心と自己有用感を育む教育活動																									
研究主題	≪ 研究 主 題 ≫ 『 伸びしろ層、中間層の学力向上 』 ～ 明確な課題設定と振り返りの工夫による個別最適化を目指して ～																									
特色ある教育活動	(1) 小中一貫教育の推進 ①学びをつなぐ（9年間を見通した学びの連続性） ・学習の連続性（教育課程の編成：勉強を積み上げる計画） ・規律の連続性（学習、生活のきまり等、発達段階に応じて） など ②人をつなぐ（児童生徒・教職員の交流） ・体育専科授業（中→小：小4～小6） ・中学校登校（授業体験、部活動体験、中学校生活体験：小6） ・児童生徒交流（いじめ撲滅集会、合同道徳：小5～中3） (2) とうべつ未来学の推進 ○ふるさと教育、国際理解教育、キャリア教育の充実																									
学級編制	令和6年5月1日現在 <table><tr><td>学年</td><td>1年</td><td>2年</td><td>3年</td><td>合計</td></tr><tr><td>学級数</td><td>2</td><td>1</td><td>2</td><td>5 <2></td></tr><tr><td>男子</td><td>21(1)</td><td>15(0)</td><td>24(0)</td><td>60 (1)</td></tr><tr><td>女子</td><td>22(2)</td><td>21(1)</td><td>24(1)</td><td>67 (4)</td></tr><tr><td>合計</td><td>43(3)</td><td>36(1)</td><td>48(1)</td><td>127 (5)</td></tr></table> ※ () ～特別支援学級の児童・生徒数で外数とする。 < > ～特別支援学級数で外数とする。	学年	1年	2年	3年	合計	学級数	2	1	2	5 <2>	男子	21(1)	15(0)	24(0)	60 (1)	女子	22(2)	21(1)	24(1)	67 (4)	合計	43(3)	36(1)	48(1)	127 (5)
学年	1年	2年	3年	合計																						
学級数	2	1	2	5 <2>																						
男子	21(1)	15(0)	24(0)	60 (1)																						
女子	22(2)	21(1)	24(1)	67 (4)																						
合計	43(3)	36(1)	48(1)	127 (5)																						
教職員	令和6年5月1日現在 校 長 森 聰 教 頭 吉 川 広 樹 教職員数 主幹教諭1名 教諭13名 養護教諭1名 事務職員2名 時間講師2名 学力向上推進講師2名 特別支援教育支援員2名 事務嘱託員1名 学校管理人1名 A L T 1名 スクールカウンセラー1名																									

➤ 3 学校給食

(1) 学校給食の役割

学校給食は、食育として栄養バランスのとれた食事の提供、正しい食習慣・食文化についての学び、児童生徒一人一人が「自分の健康を考え、食事を選ぶ能力」を身につけるなど大切な学びの場です。

- | | |
|---------------------|----------------------|
| ○ 栄養バランスのとれた豊かな学校給食 | ○ 望ましい食習慣を形成する学校給食 |
| ○ 人間関係を豊かにする学校給食 | ○ 自然の恵みや感謝の心を育てる学校給食 |

(2) 食育の推進（栄養教諭による授業・指導）

地場産食材を活用し、伝統食や季節の行事食を提供することにより、子供たちが地域を知り産業について理解を深め、地域に誇りを持てるような「食育」の展開を進めています。

(3) 給食費（令和5年4月改定）

区分	実施回数（回）	一食単価（円）	年額（円）
小学校	1年	181	48,146
	2年	188	50,008
	3年	187	51,051
	4年	187	51,051
	5年	185	51,615
	6年	185・188	51,615・52,452
中学校	1年	189	64,071
	2年	184・186	62,376・63,054
	3年	179・180	60,681・61,020

(4) 学校給食センターの運営

①学校給食センター運営委員会は、教育委員会の諮問機関として10名の委員で構成され、学校給食費や給食センターの運営に関わる事項について審議しています。

《委員構成》教職員4名、保護者3名、学識経験者3名 《委員任期》2年

②調理・配送・配膳業務を北日本フードサービス（株）へ委託 《業務従事者》28名

(5) 施設概要

区 分	概 要
名 称	当別町学校給食センター
所 在 地	石狩郡当別町若葉 2224 番地
建 設 年 度	平成 7 年 5 月着工
開 設	平成 8 年 1 月（平成 7 年度 3 学期）
敷 地 面 積	3,625.00 m ² （1,096.56 坪）
建 物 面 積	1,098.12 m ² （332.18 坪）
構 造	鉄筋・鉄骨コンクリート造 一部 2 階建
調理場区分	共同調理場
厨 房 方 式	ドライシステム
調 理 能 力	最大 3,000 食／日
廃 水 処 理	回転円板方式
厨 芥 処 理	有機廃棄物処理方式
建設事業費	830,386 千円
実 施 状 況	1 日最大提供食数 858 食（令和 6 年 5 月現在）

➤ 4 保護者支援制度

(1) 就学援助

経済的理由によって、就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、その就学に必要な援助を行う。

≪内訳（令和6年度支給額）≫

（単位：円）

支給費目		小学校	中学校	内 容
新入学児童生徒 入学準備金	入学前	57,060	63,000	入学予定者が入学に必要な通常必要とする学用品及び通学用品
新入学児童生徒 学用品費等	1 年	57,060	63,000	小学校又は中学校に入学する者が通常必要とする学用品及び通学用品 ※ 入学前に入学準備金を受給した場合は対象外
学用品費 (学) 通学用品費 (通) 校外活動費 (校)	1 年	(学) 11,630	(学) 22,730	各教科及び特別活動の学習に必要なとされる学用品（実験、実習教材費を含む）、通学用靴、雨傘等の通学用品に係る経費並びに校外活動に参加するために必要な交通費及び見学料
	2 年	(学) 11,630 (通) 2,270 (校) 実費	(学) 22,730 (通) 2,270 (校) 実費	
	3 年			
	4 年			
	5 年			
	6 年			
体育実技用具費	スキー	26,500	38,030	体育授業の参加に必要な体育実技用具（スキー用具） 小1・4年、中1年のみ
修学旅行費		実費	実費	小学校及び中学校で、それぞれ1回参加する修学旅行に直接必要な交通費、宿泊費、見学料などの経費
生徒会費			実費	生徒会費として負担すべき経費
PTA会費		実費	実費	PTA活動に要する費用として負担すべき経費
卒業アルバム代等		11,000	8,800	通常制作する卒業アルバム及び卒業記念写真等の購入費 小6年、中3年のみ
学校給食費		現物支給	現物支給	学校給食に要する食費の全額
医療費		実費	実費	感染症又は学校病にかかり、学校から治療の指示を受けたとき、その疾病のための医療に要する費用 学校病とは、トラコーマ及び結膜炎、白せん、疥せん及び膿痂疹、中耳炎、慢性鼻腔炎及びアデノイド、う歯、寄生虫（虫卵保有を含む）をいう。

(2) 特別支援教育就学奨励費

小学校及び中学校の特別支援学級に在籍し、就学援助の対象とならない児童生徒の保護者に対し、経済的負担を軽減するため、就学奨励費を支給する。

≪内訳（令和6年度上限額）≫

（単位：円）

支給費目		小学校	中学校
新入学児童生徒 学用品・通学用品購入費	1年	25,555	30,490
学用品・通学用品購入費		5,820	11,370
体育実技用具費 小1～3年、4～6年、中1～3年の 各期間に1回まで	スキー	13,255	19,015
校外活動等参加費（宿泊を伴う）		1,845	3,105
校外活動等参加費（宿泊を伴わない）		800	1,155
通学費		実費又は実費の1/2	実費又は実費の1/2
修学旅行費		10,790	28,860
学校給食費		実費の1/2	実費の1/2

(3) 特別支援学級等通学援助費

小学校及び中学校の特別支援学級・通級指導教室に通学する児童生徒の保護者に対し、経済的負担を軽減するため、通学費の一部を支給する。